

第 39 回大阪府環境影響評価審査会議事概要

- 1 日 時：平成 23 年 12 月 8 日（木）10:00～11:20
場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 5 階 サイエンスホール
- 2 出席委員：尾崎委員、貫上委員、桑野委員、近藤委員、高橋委員、中原委員、藤田委員、増田委員（五十音順）
- 3 議 題：
 - (1) よみうり文化センター（千里中央）再整備事業に係る環境影響評価方法書について
 - (2) その他
- 4 議事内容：
 - (1) よみうり文化センター（千里中央）再整備事業に係る環境影響評価方法書について
 - 意見照会（資料 1）
 - 事業者より環境影響評価方法書の概要説明（資料 2、3）

<質疑応答>

(委 員) 地図は何年のものを使っているか。

(事業者) 平成 17 年の地図だと思う。それ以降、豊中市発行の新しい地図は出ていないが、事業計画地近傍でそれ以降に新築された建物は、追記している。

(委 員) この辺りは非常に改変の激しいところだと思うので、地図が古いと思う。

(会 長) 最新の地図や現地の確認により補正するなど努力していただきたい。

(事業者) 公表されている最新の地図をもとに可能な範囲で補正していきたい。

(委 員) 築後 33 年というのが古いのかどうか。先ほど建物を見てきたところ、あの立派な建物を壊すのかと思うと忍びないとの感想を持った。

環境影響評価の中では防災という言葉は余り出てこないが、十分考慮していただきたい。

それから、現地調査について、大気質については、既存の文献を使うとのことだが、一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局がどの辺りにあるのか。

また、風向・風速、局地的な風況については、風洞実験で予測をするとのことだが、風洞実験だけではなかなか把握できない。建設後にどのような風が吹くかという予測だけでなく、現状の把握もしてほしいので、例えば騒音・振動の調査地点で風向・風速を調査することはできないか。

(事業者) 建替えの件は、現在老朽化が進み補修費等も多額を要していることや、事業性等を複合的に考慮し、事業者としては建替え時期として妥当と判断している。

防災面については、現在制震性の高い建物を計画しているが、具体的な検討には至っておらず、今後明確になった時点で何らかの形で公表したい。

大気の常時監視測定局は、豊中市内に 3 箇所あり、このうち、自動車排出ガス測定局である千里局のごく近傍、約 300m に事業計画地があるため、千里局のデータを大気質のバックグラウンド濃度として用いて予測したい。事業計画地が、千里中央地区にあり、中央環状線のすぐ横と条件が似ていることから、千里局のデータを用いてよいのではと考えている。

風洞実験については、現地調査をするならば、1 年間の調査期間を要するので、既存データを用いてシミュレーションしたい。現在、豊中市役所の風向・風速を使ってシミュレーションするよう考えている。風洞実験の場合、ビル風の影響を把握するため、高層の風を下ろしてきてどうなるかということシミュレーションする。

(委 員) ビルの完成後にビル風が発生したときに、建設前の状況が分かっていないと事業

による影響かどうか説明しにくい。

(事業者) 風洞実験では、現状と建設後の双方について、同じ地点で比較をする。その結果で評価したいと考えている。現在の風況は、現地で1年間調査しないと把握は難しいと考えている。

(委員) 工事用の車両のルートについて、事業計画地から出て行く車両が、千里中央地区の中心部の道を通る。ここは歩行者の横断が多く、また、第一立体駐車場があるため車の出入りがあるなど、今でも輻輳しているの、さらに工事用車両が通り抜けていくのは、何とかならないのかと思う。例えば、西側から新御堂筋の方に直接出る出口が作れるとずいぶん解決するのではないかと。簡単ではないかもしれないが、検討願いたい。

それから、道路交通騒音の調査地点として、事業計画地からかなり離れた2箇所を選んでいるが、事業計画地から出て行くルートで新御堂筋の下をトンネルでくぐった直後辺りで交通が集中するので、その辺りでの調査もあるとよいと考える。

また、夜間工事の必要性を対策とともに教えていただきたい。

解体工事時によく問題になることとして、住民が市役所等に騒音の苦情を言っても、その時点では工事が終わっており測定できないことがある。解体工事時の予測や対策についても記述願いたい。

低周波音についてG特性等とされているが、G特性だけではなくて、1/3オクターブバンドレベルも測定していただきたい。

(事業者) ルートの考え方については、方法書のp.10の事業計画地の東側の千里中央2号線が北側一方通行の道であるため、事業計画地から出る場合は、現状では左折して北上するルートしか無い。新御堂筋に直接出るためには、新たに交差点をつくる必要が生じること、地盤レベルが違うということもあり、難しいと考えている。

調査地点としては、病院、住居等があり、かつ、交通量が多いところを代表地点として選定している。御指摘の地点周辺には現在住居は無い。そのさらに西側には住居があるが、道路との離隔等があるので、それほど大きな影響はないのではと考えている。

夜間工事については、可能性があるということであり、実施すると決まっているものではない。

低周波音の1/3オクターブバンドについては、調査、予測する予定である。

解体工事時の騒音等について、工事時の予測は、工事計画に基づき、工事期間中の影響が一番大きくなる時期、これは重機が一番多く稼働する時期になると思うが、その時期をまず設定し、その時期の工事、建設機械からの騒音を周辺で予測する。予測時期が解体工事時期に当たるのかどうかは、具体的に設定しないと分からない。事後調査として工事時の調査を行うことになるので、その際も影響の大きい時期を設定して調査するよう考えている。また、工事時の苦情については、工事管理において施工業者と調整しながら対応してきたいと思う。

(委員) この種の事業で問題になるのは、工事時の騒音や交通渋滞に伴う騒音、自動車排ガスが中心ではないかと思う。本事業は駅前の集客施設の建設であり、土日祝日には交通渋滞が予想される。

夜間工事は実施するかどうか分からないというお答えだったが、夜間工事をするならばしっかり記載するのが当然だと思う。

また、供用前、供用後、工事中にどの程度の車両が通行するのか明らかにしたうえで、交通ルートの設定について示すべきであり、単にルートを示されるのでは不十分であると思う。

(事業者) 工事時の騒音、交通渋滞については、誘導員を配置して適正に誘導することにより周辺への影響を軽減したい。

夜間工事については、可能性があるということでも方法書に記載している。夜間工

事を行うことが決まれば、準備書に対策、環境配慮を記載したい。

工事中の交通量については、今後、工法を検討して工程表を作成し、建設機械台数、工事車両の台数を想定した上で、騒音・振動等の予測を行っていきたい。供用後の車両については、施設の想定延床面積から想定した発生集中交通量と近隣の交通量から、交差点の交通処理等が可能かも検討したうえでこのルートを設定している。

今回説明したのは方法書であり、どのように調査等をするかを示したものの。具体的な工事関係車両台数や施設関係車両台数は、これから詳細に予測し、それに基づいて騒音や大気質の状況を予測し、その結果を準備書として提出する。

(委員) 詳細はそれでよいが、予測について交通量の表現がない。少なくとも、具体的なことは後に明らかにするが、交通量の予測をしっかりとやるという記載があって然るべき。

(委員) 方法書で大気質の地域概況としては、環境基準に適合していると書かれているが、例えば光化学オキシダント濃度の非常に高い日などの特異日が書かれていない。供用後の駐車場の台数が商業施設 370 台、住宅 550 台とされており、こうした車両が通行するようになると、大気質のバックグラウンド濃度に事業による影響が加わる。例えば黄砂が飛来して、浮遊粒子状物質の濃度が上昇するなど、特異日の状況が把握できていれば、工事が原因ではないと説明でき、供用後にも役立つので、バックグラウンド濃度についての記載事項をもう少し考えておいた方がよいと思う。

それから p. 103 に、自然環境で気象のデータが平成 18 年から 22 年まで記載されており、概ね 3 m/s の平均風速とのことだが、日変化も季節変化もあり、また、経年的に卓越風向が全国的にも変わってきている。予測にどのデータを用いるのかは重要なので、季節的な最多風向、風配図などを準備書では記載してほしい。

(事業者) 大気質の現況のデータについては、方法書の地域概況としてこのようにとりまとめているが、予測に用いる際には詳細なデータも参考としたい。なお、予測については年平均値を想定しており、年平均値に寄与濃度を上乘せすることになる。

(委員) 熱供給システムからの供給を受けるとあるが、現状どうなっているか、また、不足する場合にはガスによる対応を検討すると書かれているが、エネルギー需要に対して十分供給できる見通しが立っているのか教えていただきたい。

それから、大気質について、現地調査を千里局のデータで代替できるとの説明だが、千里局は非常に交通量の多い中国自動車道と新御堂筋線の交差点にあり、また、千里局と事業計画地は新御堂筋を挟んで位置していることから、濃度が違う可能性が考えられる。少し現地調査を行った方がよいのではないかと。

(事業者) 熱供給事業者からの熱供給の容量については、現在の使用量と同程度の供給を受ける計画で、熱源プラントの増設はないと聞いている。ガスの使用については、現在の計画では電気と熱供給事業者からの供給で賄う予定だが、今後、テナントからガスを使いたいとの要望がある場合に、事業者としては導入を検討したうえで判断したい。もし使う場合には予測・評価を行うよう、方法書に記載している。

それから、千里局の大気質のデータを使うことが適切かどうかについては、御指摘のように、中央環状線と中国自動車道については東西に走っているので立地状況としては似ているものの新御堂筋を挟んで千里局と事業計画地が反対側に位置するので、若干違う可能性はあると思う。しかし、年平均値、平均的な濃度を考えれば、それほど差はないのではと考えている。現地調査をするとなると、先ほどもあったように 1 年間観測地点を置いて測定することになり、時間を要するうえ、場所の選定がかなり難しい。300m 程度という距離と、立地条件の類似から、ほぼ現地を代表しているのではないかと考えており、この方法で実施したいと考えている。

(委員) 本事業における建物の寿命はどの程度で計画しているか。

(事業者) 50年から70年くらいは立地すると考えている。

(委員) この地区で最も高い建物になる。面積も大きく、威圧感を与える可能性を懸念している。景観にも配慮した、威圧感を与えないような美しい建物にさせていただくように希望する。

(委員) 温室効果ガスの排出量削減について、定量化できるものはぜひしてほしい。

(事業者) 各種の省エネ対策などを考えているので、それぞれの効果については、できるだけ定量化したい。

また、デザインについて、赤レンガのイメージを継承するというようなことは考えている。

(委員) 雑用水については地下水、雨水を使用するとのことだが、相当量使われるのか、それとも試みとして行われるのか。これだけ大きな施設なので、環境配慮の観点から、できるだけこれらの使用に努めていただきたい。

(事業者) 地下水、雨水は、植栽散水や商業施設の雑用水として使用したいと考えているが、用水量や、井戸の規模などの詳細は検討中であり、今後、準備書等で整理していきたい。

○ 事務局より手続きフローの説明（資料4）

(3) その他

○ 事務局より環境影響評価法の一部を改正する法律の概要及び大阪府環境影響評価条例の改正について報告（資料5）

・ 質疑応答なし